

令和7年度 愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業 冬のわくわくサイエンス

1 ね ら い

- 理科離れが叫ばれている中で、子供たちに科学体験が直接できる場を提供する。
- 科学のおもしろさを実感させると共に、科学や天体に対する興味・関心を高める。
- 主体的・探究的な学びの機会とする。

2 主 催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

3 企画・運営

愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会

4 後 援

大洲市教育委員会、八幡浜市教育委員会、西予市教育委員会、
内子町教育委員会



5 期日・場所

令和7年12月20日（土） 国立大洲青少年交流の家

6 講 師

大洲市自然科学教室、えひめ星空キャラバン隊

7 日 程

時 間	内 容	会 場
13:45～	受付	自然環境館玄関ホール
14:15～14:20	開講式	自然環境館エコスタディールーム
14:30～17:20	① わくわく実験 「動く!光る!跳ねる?!スライム作り」 ② サイエンスクッキング 「温度で変化?! べっこう飴・カルメ型抜き作り」	自然環境館2階ホール 自然環境館エコスタディールーム
17:30～18:20	夕食 「レストラン特別メニュー」	森のレストラン（※保護者も参加可能）
18:30～19:30	③ 冬の天体観察 「親子で天体望遠鏡をのぞいてみよう」	かんぼ ラジオ体操広場 （※保護者も参加可能）
19:30～19:40	閉講式	本館2階ホール

6 参 加 者 数

112名（小学3～6年生とその保護者）

7 活動内容と参加者の様子を含む

【スライム作り】

基本のスライム、光るスライム、動くスライム、跳ねるスーパースライム等、子供たち自身が3種類選び、挑戦することができた。上手くできないときは理由を考え、講師やボランティアの高校生や大学生に質問し、試行錯誤する姿が見られた。



【べっこう飴・カルメ焼き作り】

砂糖が温度で変化し様々な形になることを学んだ上で、一人ひとりがべっこう飴・カルメ焼き作りに取り組んだ。美味しいべっこう飴を作るために温度調整や、準備等各班で意見を出し合い、協力することができた。何度も失敗しながらカルメ焼きに挑戦する参加者もいた。



【天体観察】

保護者や兄弟姉妹も一緒に多くの方が参加した。夏の大三角形や土星を雲間から天体望遠鏡で観察することができた。参加対象者の多くが学校において学び始めるタイミングで、日常生活では体験できない神秘的な感動を味わうことができた。



【全体を通して】

本事業の運営にあたっては、全体の進行やスケジュール管理を当施設職員が担いながら、安全管理に万全を期して実施した。また、開講式や閉講式では、子供達の健全育成における体験活動の重要性について参加者や保護者に説明を行った。

8 参加者の声 （事業後アンケート結果）

【参加者】(60 名回答)

*満足：89% *やや満足：11% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

○不思議だったことが知れたり、初めての経験がたくさんできた。

○スタッフの方や班の子が、分からないことを教えてくれて嬉しかった。

○今までそんなに興味がなかったことも、説明を聞いたり体験することで興味がわいた。

9 事業の成果と課題

本事業は科学体験活動を通じて、班で協力することや、失敗を恐れずに何度も挑戦することの大切さを学ぶとともに、交流を育む貴重な機会となった。

参加募集をしたところ、定員の2倍の応募があった。当事業の趣旨から多くの方に参加頂くために、講師との打合せ回数を増やし、近隣の八幡浜高等学校自然科学部員や法人ボランティアの高校生、大学生の協力を仰ぐことで、経験豊富な講師陣と多くの協力員のもと、応募者全員の参加を受け入れることができた。また、当初のねらいを十分に達成することができたことや、参加児童や保護者からの科学に対する興味関心や学びの意欲が高いことを実感した。

一方で、夜の活動であったため、法人ボランティアや協力団体との振り返りの時間を当日作ることができなかったことや、天体観察のスタッフ不足等いくつか課題も明らかとなった。これらの成果と課題を踏まえ、今後も良質な科学体験活動を提供していきたい。

(担当：事業推進係主任 三好 唯)